

## RNP AR 進入方式の導入に伴う航空保安業務処理規程の改正について

### 1. 背景

RNP AR 進入方式は、広域航法 (RNAV) による計器進入方式の一つであり、既存の RNAV 進入方式と比較してより高い航法精度の指定及び曲線経路の設定が可能となるという特徴がある。RNAV ロードマップでは、平成23年度中に同進入方式の導入を図ることとされていたが、今般、東京国際空港及び大館能代空港に同進入方式が設定され、平成24年1月から運用開始が予定されている。

RNP AR 進入方式では、航空管制官が航空機に指示可能な速度に制約がある等従来の RNAV 進入方式により進入を行う航空機とは異なる取り扱いが求められることから、当該運用開始にあわせて航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程の一部を改正することとする。

また、現行の同規程に定められている RNAV に関する定義等に、国際民間航空機関 (ICAO) が定める性能準拠型航法<sup>(※)</sup>概念が一部反映されていないことから、見直しを行う。

(※) 性能準拠型航法 (Performance Based Navigation - PBN) とは航法に使用するセンサーの種類によらず、航空機に求められる航法精度により飛行経路の規格及び航空機、乗務員に関する要件が仕様として定められた広域航法である。

### 2. 改正概要

#### I 総則2 定義

RNP AR 進入方式の定義を定める他、RNAV に関連する定義を ICAO 性能準拠型航法概念に基づき改正する。

#### III 管制方式基準

RNP AR 進入方式を行う航空機の管制業務上の取り扱い及び注意事項を定める。

### 3. 今後のスケジュール(予定)

平成24年1月12日 施行